

## 5 高大の教育接続の課題 —学習面の接続を視点として—

Benesse 教育研究開発センター 主任研究員 樋口 健

### 政策課題としての「高大接続」

国では、平成24年9月より、中央教育審議会高大接続特別部会を開始した。この部会は、大学入試制度改革の在り方について、高校教育の質保証、大学教育の質保証と一体的に捉えて、総合的な観点で制度改革を論議するものである。それ故に入試改革ではなく「高大接続」をテーマの前面に出している。このように政策面で「接続」が強調される背景には、いわゆる全入時代の到来と推薦入試やAO入試など学力によらない多様な入試の広がりがある。従来、競争性の高い大学入試によって埋めてきた「大学教育と高校教育の溝」、すなわち「入学者が大学で十全に学ぶための基礎力」を、現状の入試では十分に獲得できず、大学の質保証ができなくなったとの危機意識がある。

こうした背景の下、本稿では、大学生の学習の実態面から、特に学習習慣と科目知識に着目し高校と大学の接続について検討する。

### 受験勉強を持続的な学習習慣へとどう昇華させるか

「勉強しない大学生」の言葉に象徴されるように、大学生の学習時間の少なさはよく指摘されることである。本調査でも、1週間あたりの学習時間について、0時間と1時間未満を合わせた割合をみると、「授業の予復習を行う時間」で42.9%、「授業以外の自主的な勉強」で58.7%にのぼる（第1章 図1

－2－2・図1－2－3）。ここが、大学生にどのようにして主体的な学習へと向かわせるか、という近年議論されてきた大学教育に係る問題の所在である。

しかし、当然のことではあるが、すべての大学生が高校時代から勉強してこなかったわけではない。高3の9月時点を振り返ってもらうと、「1時間未満」（1日あたり）の比率は20.7%と5人に1人を占める一方、「3時間以上」の比率は48.5%と約半数に上り、相当数の高校生が懸命に学習に取り組んでいる様子を読み取れる（図1－2－1）。高校3年の9月は、大学進学を目指す高校生の多くが受験勉強に取り組み、佳境に入ってくる時期ということであろう。

こうして見ると、課題の一端はこうした「受験を通じた高校時代の学習努力が持続的な学習習慣として昇華し、大学での学習に結びついていない」ということではないだろうか。例えば高3の9月に、1日あたり5時間以上と相当な時間を勉強していた層でも、大学生になると6割弱が、授業の予復習が「1週間で2時間以下」となる。この傾向は高3の9月段階で3～4時間勉強していた層でも変わらず、決して十分な水準とはいえない（図1－2－2）。入試に対する学習を、学びの本質的な楽しさや意義を実感させるものとして、どう取り組ませるのか。これは、高校教育側の進路指導の課題でもある。また、入試の学習経験をどう活かして、大学の学習につなげていくか、これは大学側の課題であろう。

一方で、「受験時に勉強しなかった者は、

大学入学後、一層学ばない」のも事実である。高3の9月に1時間未満しか学習していなかった層では、大学の授業の予復習が1週間で1時間未満（0時間含む）の割合が59.1%とほぼ6割に達する。こうした大学生は、「そもそも」学びに向かう力（意欲や習慣）を、初歩の段階から構築していく必要があるのかもしれない。この時、一般・センター入試か推薦入試やAO入試かといった入試方法の違いが高3時の学習時間に大きく関連している事実（図1-2-1）を踏まえると、やはり入試制度の影響は大きい。学習者としての成長を念頭に、推薦入試やAO入試も含めて「学ばせる受験へ」とどう変えていくか、大きな課題といえるだろう。

### 入試方法で異なる知識・理解の不足感

次に、大学で学ぶ上で知識・理解の不足を感じている高校までの科目について、特に入試方法との関係から確認してみる。全体では、知識・理解の不足を感じる科目として、「英語」が最も高く48.4%であった。続いて、「数学」が高く37.7%、「物理」（24.7%）や「化学」（23.3%）も比較的高かった（図1-2-6）。

これら高校科目の知識・理解の不足感は、学部系統別、入試方法別にみるとさらに顕著となる（表（次頁））。「英語」については、センター入試や一般入試など、学力入試を経てきたかにより、大学に入ってから不足感に15ポイント近く違いがある。すなわち推薦・AO入試など学力試験以外で入学してきた大学生のほうが知識・理解の不足意識が強い。その傾向は学部系統によらず共通したもので、特に「社会科学」「教育」学部系統において明確である。

「英語」以外では、「数学」で、「理工」「農水産」「医・薬・保健」で、やはり学力入試以外の学生が知識不足をあげる割合が高い（いずれも、学力入試層より10ポイント以上）。

また「理工」系統では、「数学」と「物理」において、学力入試以外の層が知識・理解不足と回答する比率が高く、それぞれ学力入試層を15ポイント前後上回っている（なお、「農水産」系統でも「数学」「化学」「生物」で学力入試以外の層が、知識・理解不足と回答する比率が高い。しかし同系統の学力入試以外の該当数は39と少数であり、参考値とする）。

このような結果をみると、よく指摘されることではあるが、全体（マクロ）としては受験勉強を行い学力入試を経てきた層と、推薦入試やAO入試など学力入試以外で入学した層とでは、確かに高校時代までの基礎知識の蓄積に違いがあるようだ。それが大学入学後の学習上で、不足感の違いとして表れているように思える。

現在の入試改革の議論の中では、高校の教科科目の到達状況より、むしろ、思考力重視の試験へと舵を切るべきであるとの意見がある。しかし一方で、大学で求める思考力は十分な基礎知識の上に立つのも正しい認識だろう。また、推薦入試やAO入試を経た学生は学習意欲において、学力試験を経た一般入試組より高いという指摘もある。しかし、上の状況をみる限り、特に学力入試以外の層では、いかに意欲が高かろうとも進学する学部で必要とする教科の基礎知識が不足する中では、十分に学業達成をなし得ないのではないだろうか。入学前後のリメディアルで高校時代の知識・理解不足科目を補完する考えもあろう。だが、今回の調査結果では、大学が提供する高校時代の科目の補習授業を「よく経験した」との回答者ほど、高校時代の不足科目数の平均値が高かった。このことは、高校の科目に不足意識をもつ学生ほどリメディアルを活用している状況がある一方、そこで展開される大学のリメディアルの授業が、必ずしも学生が実際に抱える知識・理解不足の状況をカバーするものとはなり得ていない可能性を示すものであろう。

序章

大学入試を、すべての受験生が、高校までの基礎的な教科科目の知識を確実に修得させるものへとどのようにして仕組みを変えるのか。また大学入試に続き、これを補完するリメディアルをいかに大学での学びに向けて有効なものとしていくのか。これは単に、高校

生の大学選択、大学の入学者選抜を超えて、大学での学習を十分に機能させるための教育的接続、ひいては大学の質保証の課題として改めて捉えなおし、再構築していくべき課題といえないだろうか。

表 高校までの科目で知識・理解不足を感じる割合（学部系統別×入試方法別）

	人文科学		社会科学		理工		農水産		医・薬・保健		教育	
	学力入試 以外(250)	学力入試 (499)	学力入試 以外(577)	学力入試 (1,116)	学力入試 以外(237)	学力入試 (700)	学力入試 以外(39)	学力入試 (177)	学力入試 以外(174)	学力入試 (382)	学力入試 以外(80)	学力入試 (181)
英語	57.6	42.1	61.4	43.0	60.3	46.9	56.4	40.1	47.7	39.5	70.0	47.5
数学	42.4	34.5	47.5	38.0	49.8	33.4	64.1	31.1	33.9	22.3	47.5	42.0
国語	19.2	13.6	14.7	12.5	12.7	17.9	15.4	10.2	8.6	12.3	13.8	19.9
物理	22.8	17.2	22.0	13.9	46.8	32.4	38.5	35.0	37.9	33.5	31.3	24.9
化学	24.8	18.4	23.4	14.2	29.1	24.0	59.0	38.4	32.8	24.9	36.3	24.9
生物	16.4	13.4	17.2	11.6	15.6	12.1	43.6	28.8	25.3	27.2	27.5	16.6
地学	20.8	12.8	16.6	10.3	10.5	7.6	17.9	10.2	9.2	5.8	23.8	18.8
世界史	29.2	30.3	22.0	21.5	12.7	10.3	12.8	9.0	7.5	8.1	23.8	29.8
日本史	24.8	26.1	22.9	18.3	13.1	10.0	17.9	10.2	6.3	8.6	31.3	27.1
地理	17.6	17.0	16.3	11.7	11.4	8.9	12.8	6.2	6.9	6.5	30.0	20.4
政治・経済	24.0	25.1	24.4	19.3	16.0	10.7	17.9	10.7	9.8	9.4	31.3	19.9
倫理	16.8	13.6	17.3	10.5	10.1	7.1	12.8	7.9	9.8	7.1	23.8	17.7
現代社会	17.2	16.8	16.5	11.0	9.3	7.1	10.3	7.9	8.6	7.9	21.3	14.9

(注1) 学力入試は一般入試・センター入試の経験者。学力入試以外は、推薦入試や一般推薦入試、附属校推薦などの経験者。

(注2) 学部系統「その他」は省略している。

(注3) ●は「学力入試以外」の比率と「学力入試」の比率が10ポイント以上の項目。

(注4) ( )内はサンプル数。「農水産」「教育」系統の「学力入試以外」はサンプル数が100未満でありここでは参考値とする。